

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

|  |                    |                           |                                     |
|--|--------------------|---------------------------|-------------------------------------|
| 博士の専攻分野の名称<br>(Major Field of Ph.D.)   | 博士 ( 文学 )<br>Ph.D. | 氏名<br>(Candidate<br>Name) | SALMA MOHAMED<br>ABDELGAWAD MOHAMED |
| 学位授与の要件  | 学位規則第4条第1・2項該当     |                           |                                     |
| 論文題目 (Title of Dissertation)<br>日本文化とエジプト文化における感謝表現の対照研究   |                    |                           |                                     |
| 論文審査担当者 (The Dissertation Committee)   |                    |                           |                                     |
| 主 査 (Name of the Committee Chair)  | 教授                 | 高永 茂                      |                                     |
| 審 査 委 員 (Name of the Committee Member)   | 教授                 | 有馬 卓也                     |                                     |
| 審 査 委 員 (Name of the Committee Member)   | 教授                 | 上野 貴史                     |                                     |
| 審 査 委 員 (Name of the Committee Member)   | 教授                 | 溝渕 園子                     |                                     |
| 審 査 委 員 (Name of the Committee Member)   | 教授                 | 仁科 陽江                     |                                     |
| 〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)   |                    |                           |                                     |
| <p>本論文は、日本語母語話者とアラビア語エジプト方言母語話者がそれぞれの言語を使用する際、場面ごとによどのように適切な感謝表現を使い分けているのかを分析し各々の特徴を対照させることと、従来から言語研究に用いられてきた「ポライトネス理論」の再検討を行うことを主たる目的としている。日本とエジプトの映画とテレビドラマを中心に資料を収集し、意識調査、インタビュー調査も併せて実施している。収集した資料と調査結果を言語・非言語の両面から分析し考察を加えている。</p> <p>本論文は、全8章から成る。</p> <p>第1章では研究内容と背景、研究の目的について述べる。従来の対照研究では両言語における感謝表現の文化的差異に関する研究が不十分であるとする。</p> <p>第2章では語用論、ポライトネス理論、感謝表現に関する先行研究について整理し、本論文の研究方法について論じる。</p> <p>第3章ではエジプトのテレビドラマと映画における感謝表現を対象として、アラビア語エジプト方言での感謝表現の使用について論じる。エジプト方言の中で使用される感謝表現とその機能について語用論的分析を行い、非言語的な感謝表現についても分析を加える。エジプト方言における感謝表現は「感謝」以外にも「依頼」「断り」「会話の終了」など多くの語用論的機能を果たしていることを明らかにする。</p> <p>第4章では日本のテレビドラマと映画における感謝表現を対象として、日本語における感謝表現の使用について論じる。日本語で使用される感謝表現とその機能について語用論的分析を行い、テレビドラマと映画の中に現れる非言語的な感謝表現についても分析を加える。日本語では「感謝」「謝罪」「挨拶」の機能が中心であり、アラビア語エジプト方言と比較して機能が限定的であることを明らかにする。</p> <p>第5章では意識調査とインタビュー調査の回答結果を分析し、感謝表現に関する両言語の類似点及び相違点を考察する。人称・呼称に関して、エジプト方言母語話者は感謝する際に個人名や愛称を多用するのに対して、日本語母語話者は個人名等を使用しない傾向のあることを明らかにする。</p> <p>第6章では両言語における感謝表現に対する文化の影響を考察する。日本語の感謝表現に対する儒</p> |                    |                           |                                     |

教の影響、エジプト方言の感謝表現に対する聖典クルアーンやフランス文化の影響について論じる。

第7章では、ポライトネス理論を中心に、エジプト方言における感謝表現とその日本語訳との関係を検討する。感謝表現を「他者専用感謝」「アッラーへの感謝」「他者専用感謝（宗教的要素あり）」に分類し、それぞれの性質の違いを分析する。さらにエジプト方言母語話者が感謝表現を使用する際の思考過程や、アラビア語学習者用テキストで使用されている感謝表現について分析を加える。従来のポライトネス理論をエジプト文化に適用する際には宗教的背景を考慮する必要があるとする。

第8章では各章の内容と調査結果を整理し、本研究の成果ならびに今後の課題について述べる。

本論文は、収集したデータを丹念に分析し日本文化とエジプト文化における感謝表現の諸特徴を明らかにしている。さらにポライトネス理論に対しても重要な提言を行っている。多方面にわたる分析を行う一方で問題の追究が不十分な箇所が残されている点は惜しまれるものの、言語・非言語を媒介として様々な角度から日本文化とエジプト文化を比較し、従来の研究の枠組みを超えて新たな領域を切り開こうとした意欲的な論文として評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)